

公告 昭 29.10.18

出願 昭 28.4.20

実願 昭 28-11273

出願人 考案者

今

村

保

三

埼玉県比企郡松山町大字松山2906

代理人 弁理士

成

田

一

男

(全2頁)

六 十 分 表 示 時 計

図 面 の 略 解

第1図は本考案時計の正面図、第2図は連動装置を示す内部正面図、第3図は本考案の要部たる主軸車の構造を示す正面図、第4図は第3図の断面図なり。

実用新案の性質、作用及効果の要領

図中1は匣体2は主針(分針)3は副針(時計)4は文字板5は地板6は作動全舞7はこれに固着せる一番車8は本考案の要部となる主軸車9,10,11,12,13,14は連動歯車15,16,17,18,19は脱進機エスケープメント20は時計に作動する連動歯車21は伝車、22は伝車軸23は主針軸24は一番車7及連動歯車20に啮合せる主針軸の歯車25は突子A,Bを刻着せる廻転板26は腕片27に固着せる爪片28は軸29はヒゲ全舞の一端30はヒゲ全舞31は主軸管32は地板に固着せるヒゲ全舞止めのピンなり。

本考案の性質は第3図及第4図に示す構造により主針として180度廻転せしめたる後直ちに復源して更に次の180度廻転を繰り返すものにして即ち作動全舞6の活動により一番車7と啮合せる主軸車8が活動する主針軸23を同軸とせる歯車24並に同軸に固着せる廻転板25爪片26と固着せる腕片27及び主針2は同時に活動を開始する然して突子

Aに掛けられて廻動する爪片26がピン32に突当る瞬間突子Aから離れてヒゲ全舞30の復源作用で主針と共に元の位置に戻つて反対側の突子Bと啮み合ひ次の半円活動を開始し之を繰り返すこの間60分の所要時間を要し伝動歯車の作用により副針(時計)22を一時間進めるのである。

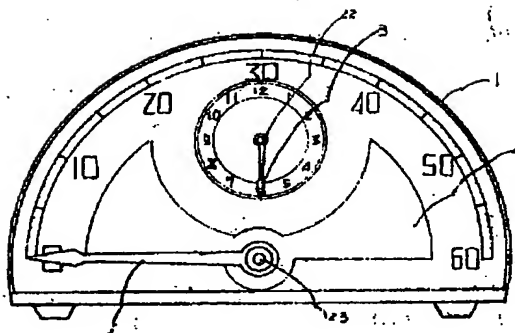
本考案に依る効果としては先づその機構を在来の時計は円形と云ふ概念を破つて半円形となしたることその為に在来の一周分が半周で済むので機械の消耗が半減されると同時に2日巻時計と同効果をもたらす文字板を主針60分刻としたために兒童に分かり易く時計についての興味を倍加せしめて学修上有益なり猶半円形であるから置時計としても其の俤装飾品となり掛時計の場合も取り付けが便利であり実用的に新規なる考案なり。

登 録 請 求 の 範 囲

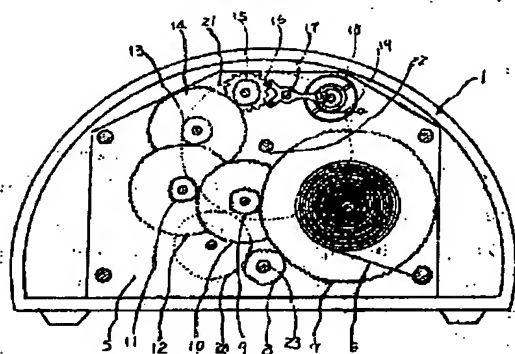
図面に示す如く作動全舞6と同軸の一番車7と啮合せる主軸車8の主軸23を同軸として歯車24突子A,Bを刻着せる廻転板25爪片26を固着せる腕片27主針2を嵌着せしめ他板5にピン32を固着せしめ60分表示の文字板4を有して成る時計の構造。

(2)

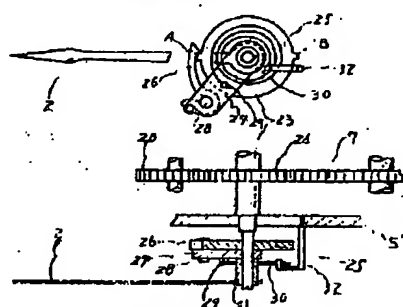
第1圖



第2圖



第3圖



第4圖